

宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(11)

－ 2019年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－

Issues in education for the First-Year Student at UTSUNOMIYA KYOWA
UNIV(11)

－ Class Reports and the results of a questionnaire survey －

松 田 勇 一

Yuichi MATSUDA

概要

本稿では、宇都宮共和大学における2019年度の初年次教育科目「基礎ゼミ」の授業報告と、本科目を受講した新入生に対して行った意識調査の結果を示した。授業報告では、当該科目の目的、方法、概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

キーワード：初年次教育 基礎ゼミ 授業報告 意識調査

1 はじめに

本学では、平成21年度春学期より初年次教育として「コミュニケーション講座」が開講され、松田（2010、2011、2012、2013、2014、2015、2016）はその授業報告と学生に対して行った意識調査の結果を示した。また、平成28年度より、初年次教育科目として「基礎ゼミ」が開講され、松田（2017、2018、2019）ではその授業報告と意識調査の結果を示した。本稿では、「基礎ゼミ」の授業報告と、本学における初年次教育の課題を提示することを目的とする。

2 授業概要

2019年度の基礎ゼミはシティライフ学部1年生の必修科目とし、大学生活を送るために必要なアカデミック・スキルを身に付けてもらうのが大きな役割である。本科目では、学生の出身校、性別等を考慮して7つのクラスを編成した。1クラスあたりの学生数は11～12名であり、各クラスに担当教員が1名配置された。また、秋学期にクラス再編を行い、ゼミ構成員、担当教員が替わるようにした。

2.1 目的

2019年度の基礎ゼミの目的は、昨年度と同様、以下の通りである。

- (1) 大学での学び方、学生生活の送り方を学ぶ。

- (2) 2年次のゼミへ向けて、調査・研究の基礎を学ぶ。
- (3) 卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考える。
- (4) 週間日誌の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に付ける。
- (5) 作文を通して、基本的な書く能力を習得する。
- (6) 各種課題の口頭発表を通じて、プレゼンテーションの基礎を身に付ける。
- (7) 合同講義を通じて、教科書の内容をより深く理解し、アカデミック・スキルを身に付ける。

2.2 授業の方法と内容

2019年度基礎ゼミは、受講者80名（日本人学生63名・留学生13名）を7クラスに分けた。各クラスには担当教員を配置し、授業時間、内容は7クラス全て統一した。そのため、毎回の授業前には、7人の担当教員が打ち合わせを行い、当日の流れや問題点などを話し合った。なお、秋学期にはクラスの再編を行った。

授業は、初年次教育のためのテキスト（川延他編2011）を用いて行った。基本的には教科書の内容に沿って進めたが、教科書の途中で合同講義や発表などを組み入れた。平成30年度においては複数クラス合同で行った講義が9回あったが、2019年度は6回であった。これは学生数が増加したため、発表準備の回と発表の回を増設したためである。授業の具体的な内容は以下の通りである。

学期	回	内容
春 学 期	1	テキスト第1章「さあ、はじめよう」
	2	テキスト第2章「勉強のリズムを作ろう」
	3	テキスト第3章「大学で学ぶということ」
	4	合同講義①ノートテイキング（松田教員）
	5	テキスト第4章「困ったことはありませんか」
	6	テキスト第5章「大学はワンダーランド」
	7	テキスト第6章「自分を守る、他人を守る」
	8	合同講義②テキスト第7章「キャンパスツアー」（西山教員）
	9	発表準備①（3クラス合同）
	10	発表準備②（4クラス合同）
	11	発表「キャンパス周辺の〇〇の場所」①（7クラス合同・1人1分）
	12	発表「キャンパス周辺の〇〇の場所」②（7クラス合同・1人1分）
	13	合同講義③レポートの書き方（松田教員）
	14	テキスト第8章「生活プランをどう立てるか」
	15	合同講義④消費者カレッジ（学生委員会主催）
秋 学 期	16	クラス再編成・自己紹介・夏休みの課題発表
	17	テキスト第9章「卒業したらどうするか」

秋 学 期	18	合同講義⑤キャリアガイダンス（就職委員会主催）
	19	テキスト第10章「生活と人生のデザイン」
	20	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」①（7クラス合同・1人1分）
	21	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」②（7クラス合同・1人1分）
	22	テキスト第11章「研究テーマを考える」
		大学祭ポスター展示（「夏休みの課題：私の〇〇場所」）
	23	合同講義⑥文献検索実習（松田教員）（4クラス合同）
	24	合同講義⑥文献検索実習（今教員）（3クラス合同）
	25	テキスト第12章「研究を進める」
	26	テキスト第13章「研究報告をまとめる」
	27	テキスト第14章「プレゼンテーションとレポート」
	28	テキスト第15章「基礎ゼミを振り返って」
	29	最終発表「これからの研究テーマ」（7クラス合同・1人1分）
	30	卒業研究発表会聴講（4年生の卒業研究発表を聴講し評価する）

平成30年度と同様、課題として週間日誌と作文を課し、2週間に1度指定の用紙に記入させて提出させた。週間日誌は、平成30年度までは「欠席・遅刻した講義」、「その日の出来事」、「雑感・質問」からなっていたが、2019年度は「講義で印象に残ったこと・疑問に思ったこと・新たに発見したこと（字数制限なし）」、「週間報告（2週間で印象に残ったこと）200字」とした。これは、他の授業において気づきを促すこと、単なるその日の記録ではなく、一つの出来事についてより掘り下げた記述を促すことを目的として変更したものである。なお、週間日誌、作文、各種ドリルは、2穴バインダーにポートフォリオとして学生に管理させた。

2.3 成績評価

ポートフォリオ（週間日誌・作文）40%、テキストのワークシート40%、発表20%とした。なお、欠席は総合点からマイナスするという形（-欠席回数×3点）で成績評価に取り入れた。単位取得の為に各発表は必須とし、単位認定は出席2/3以上の者を対象とした。また、週間日誌と作文はクラス担当教員が添削、確認を行ったが、採点の基準は「全て記入している→2点」、「記入しているが未記入の部分がある→1点」、「殆ど記入していない、全く記入していない→0点」とした。

3 意識調査

3.1 調査概要

調査は、2019年度基礎ゼミの春学期、秋学期の共に最終回において実施した。調査した学生数は、春学期は日本人学生59名、留学生10名、秋学期は日本人学生58名、留学生

8名であった。調査した学生数の違いは、休学・退学・出欠の違いによるものである。

調査方法は、日本語で調査票を作成し、選択技法、5段階評定法、自由回答法で回答させた。調査票は、大学生活、勉強、基礎ゼミに関する部分に分かれている。

3.2 結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

3.2.1 大学生活について

1) 宇都宮共和大学に、1週間にどのくらい来ますか？

表 1

学期	春				秋			
	0～1日	2～3日	4～6日	毎日	0～1日	2～3日	4～6日	毎日
日本人	0(0.0)	0(0.0)	59(100)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.7)	55(94.8)	2(3.4)
留学生	0(0.0)	0(0.0)	10(100)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	7(87.5)	1(12.5)
全体	0(0.00)	0(0.0)	69(100)	0(0.0)	0(0.00)	1(1.5)	62(93.9)	3(4.5)

2) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主にどこにいますか。よくいる場所を3つ選んでください。

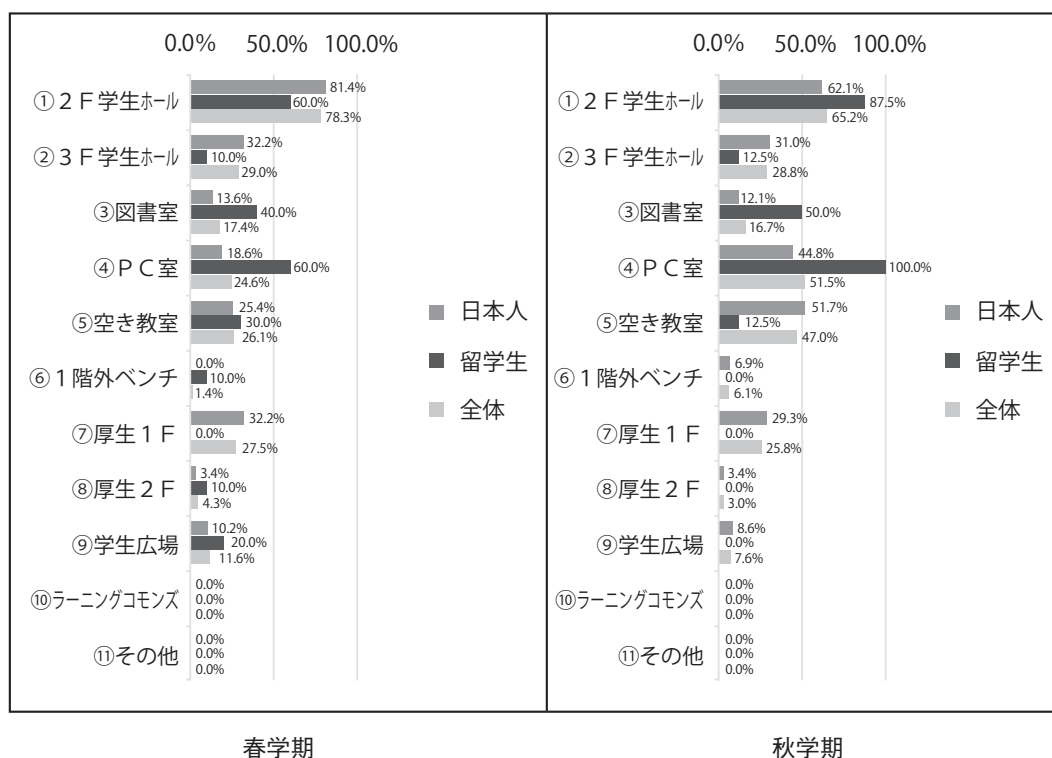


図 1

3) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主に何をしていますか。よくしていることを3つ選んでください。

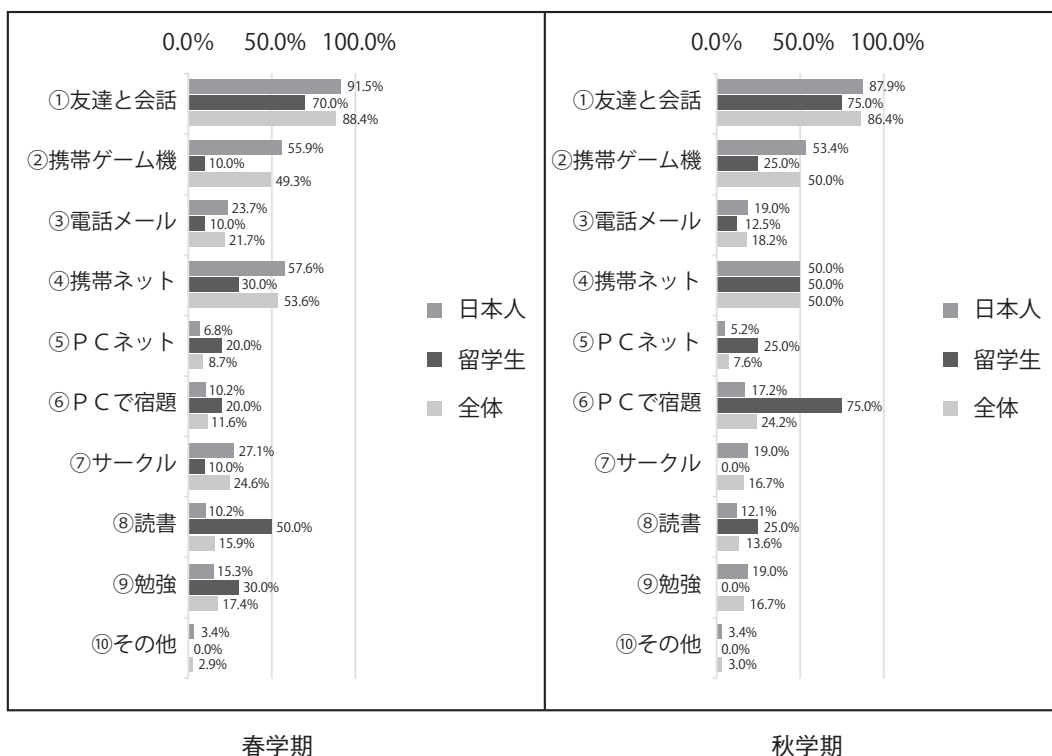


図2

4) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、楽しいと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

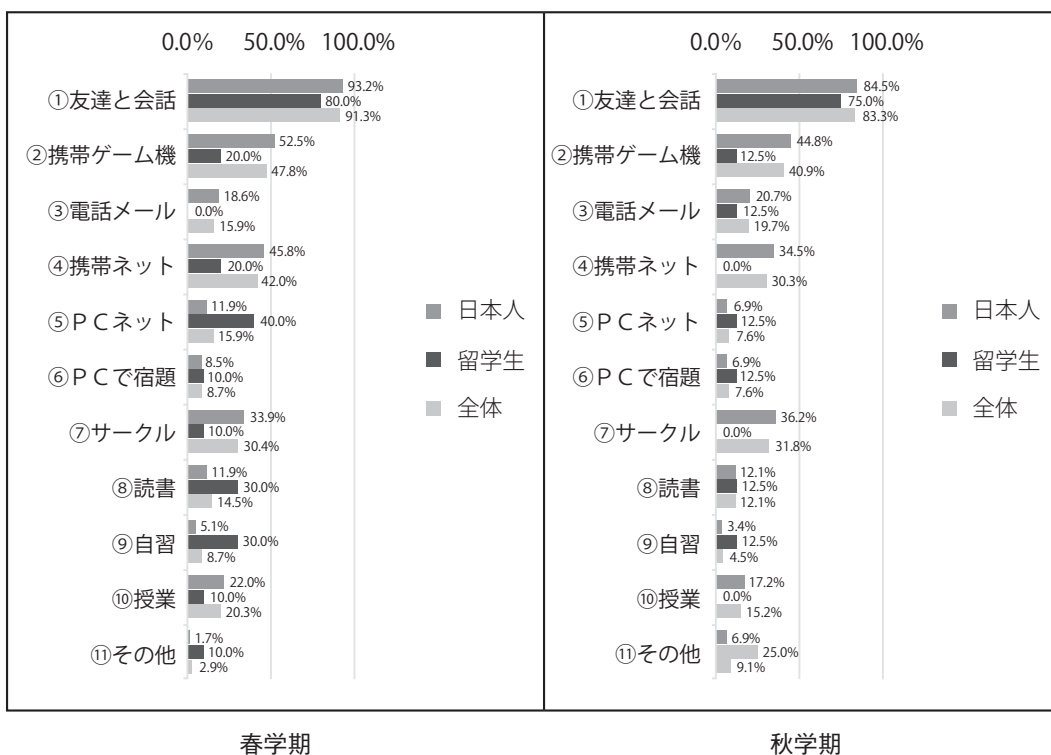


図 3

5) あなたの今の生活の中で、重要だと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

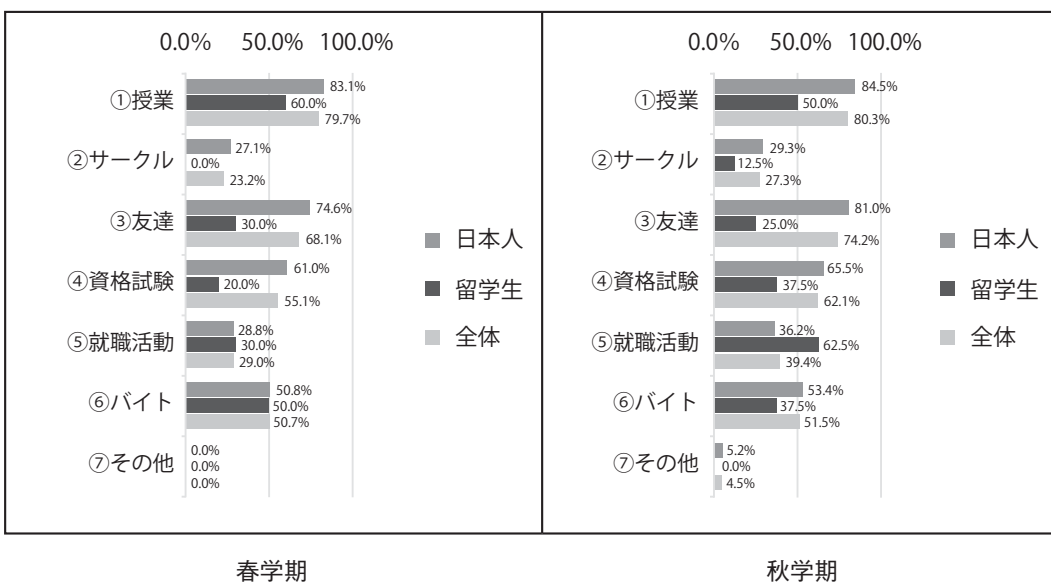


図 4

6) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、困っていることがありますか。 当てはまるもの
全てに○をつけてください。

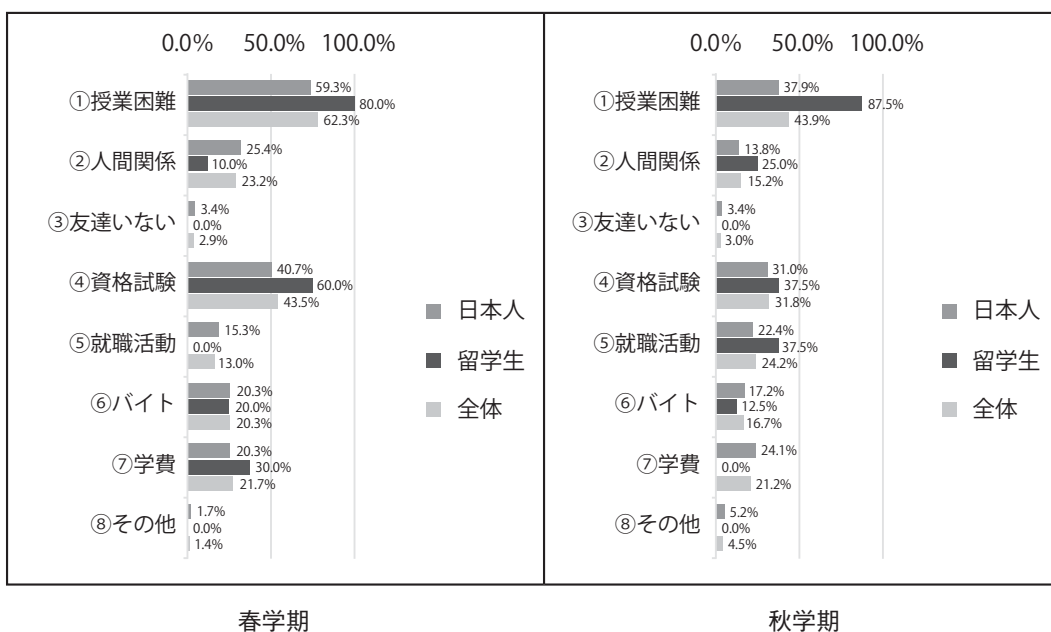
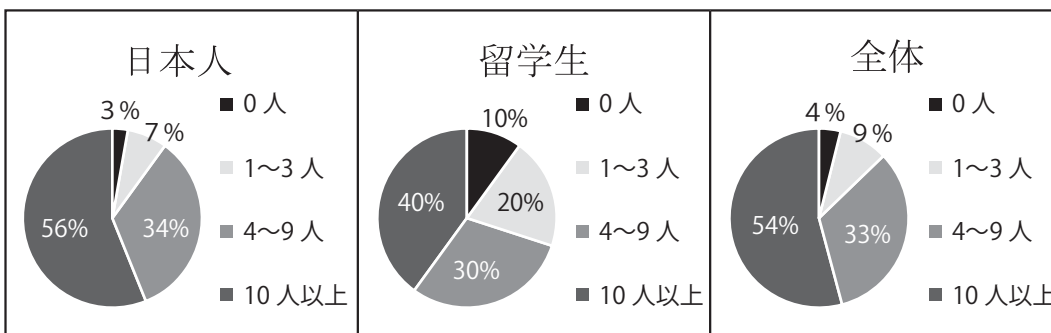
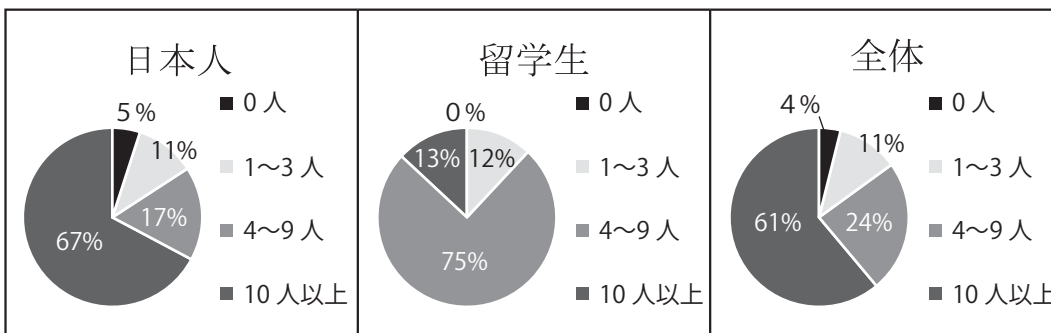


図5

7) 宇都宮共和大学に入って、友達がどの位できましたか？



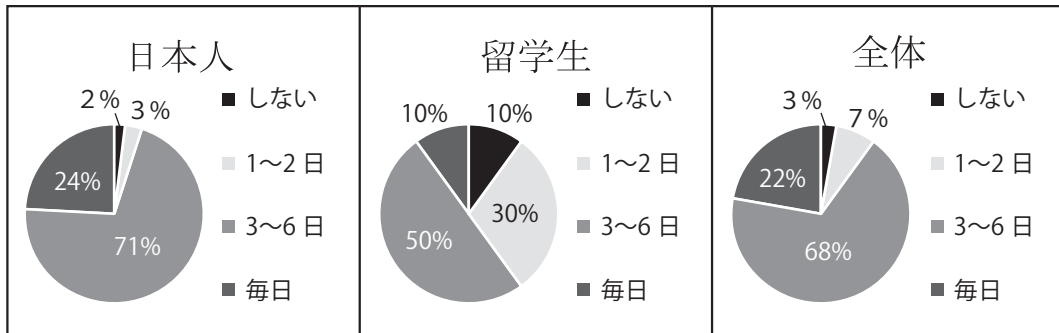
春学期



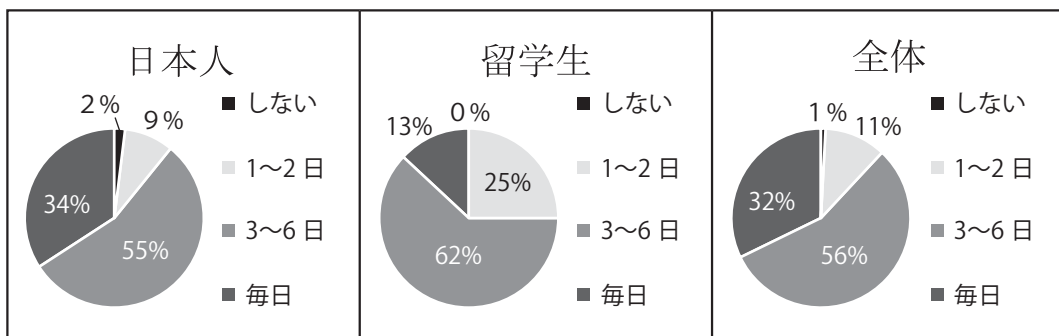
秋学期

図6

8) 宇都宮共和大学の友達と1週間にどのくらい話をしますか？



春学期

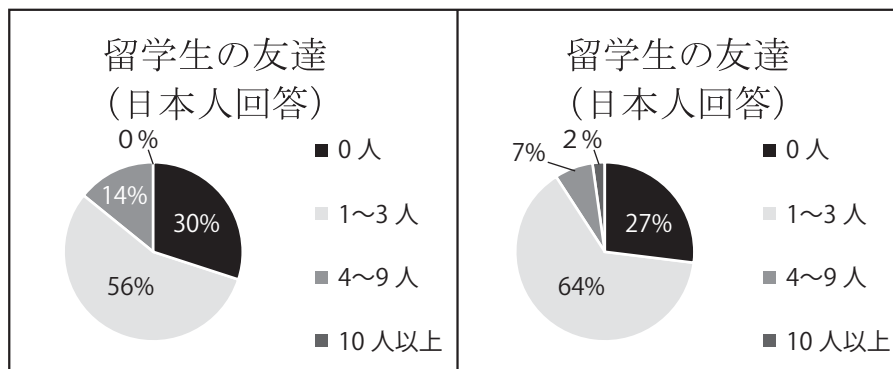


秋学期

図7

< 9) 10) は日本人学生への質問です >

9) 宇都宮共和大学に入って、留学生の友達がどの位できましたか？



春学期

秋学期

図8

10) 宇都宮共和大学の留学生と1週間にどのくらい話をしますか？

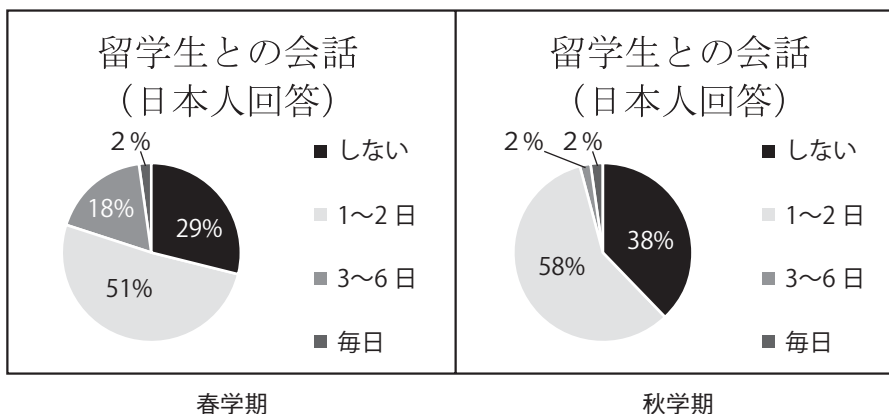


図9

< 11) 12) は留学生への質問です >

11) 宇都宮共和大学に入って、日本人の友達がどの位できましたか？

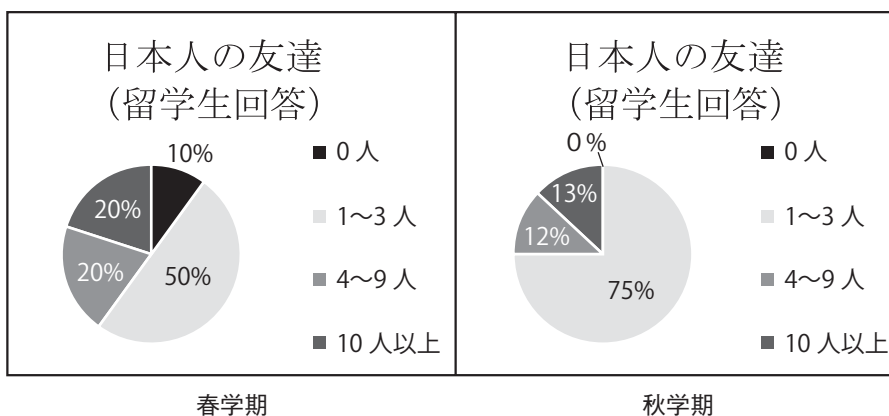


図10

12) 宇都宮共和大学の日本人学生と1週間にどのくらい話をしますか？

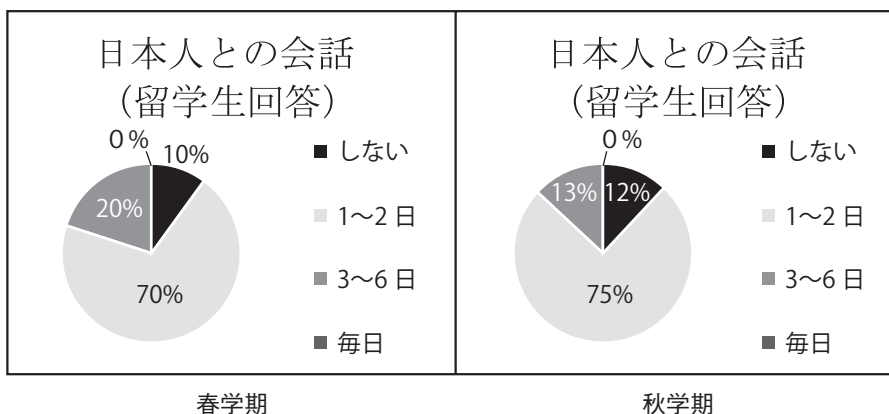


図11

質問1)は、通学の回数であるが、週に4～6回が春学期100%、秋学期93.9%となった。質問2)は、学生の居場所であるが、全体では例年同様に「2F学生ホール」が最も多かったが、春学期全体78.3%から秋学期全体65.2%と減少している。このような「学生ホール」からの居場所の移動は、昨年と同じ傾向が見られた。逆に割合が増えた場所は、「PC教室」、「空き教室」である。PC教室の増加は昨年と同様であったが、これはレポートや課題や検索などでPCの利用が多くなったためと考えられる。また、空き教室については、昨年度と2019年度は入学者が多く、全員が2Fの学生ホールで昼食を取るスペースが無いため、移動せざるを得なかった学生もいたと思われる。また、今回の調査でも1年生の「ラーニングcommons」の利用状況は低かった。ラーニングcommonsは、全学生向けに設置された場所ではあるが、座席数が少なく、多くの学生が利用できる状況にはなっていない。上級生がラーニングcommonsを利用している場合、1年生は使いたくとも他の場所に移動しているのかもしれない。

質問3)は、授業以外では何をしているのかを聞いたものである。例年同様、全体では春学期秋学期共に「友達との会話」が最も多く8割を超えた。次いで「携帯ゲーム機」「携帯でインターネット」が多かったのも例年同様である。「サークル活動」が全体では、春学期24.6%、秋学期16.7%となり、昨年度の春学期13.8%、秋学期15.8%よりも多くなった。また、PCで宿題も、昨年同様に春学期11.6%から秋学期24.2%と増加している。これは、時間の経過とともに勉強に取り組む学生が増えた表れかもしれない。

質問4)は、生活の中で楽しいと感じることを聞いたものである。全体としては、例年同様、「友達と会って話すこと」が最も多く8割を超えた。「サークル活動」の項目については、昨年度の調査では全体で春学期13.8%、秋学期22.8%と増加していたが、2019年度は春学期30.4%、秋学期31.8%と昨年度よりも高い数値になっている。

質問5)は、生活の中で重要なことを聞いたものである。例年同様、全体では「授業」、「友達との付き合い」が高かった。「資格試験の勉強」は、春学期55.1%、秋学期62.1%と年間通して数値が高かった。「サークル活動」は昨年度全体で春学期17.2%、秋学期21.1%だったが、2019年度は全体で春学期23.2%、秋学期27.3%となり、昨年度よりも高かった。質問3の結果と合わせると、2019年度の新入生は昨年度よりもサークル活動に積極的に取り組み、楽しんでいる学生が多いと考えられる。「バイト」は、春学期50.7%、秋学期51.5%となり、約半数の学生が生活の中で重要なこととして挙げている。

質問6)は、生活の中で困っていることを聞いたものであるが、例年同様「授業が難しい」が最も多くなった。しかし、これも例年同様であるが、春学期全体62.3%から秋学期43.9%と減少し、大学の授業に順応している様子が見られる。「就職活動」が、春学期13.0%から秋学期24.2%に増加し、就職に対する意識の高まりが見られる。

質問7)、8)は、友達がどの位できたか、1週間にどの位話をするかを尋ねたものである。殆どの学生は本学に入学してから新たな友人ができており、10人以上の友達ができた者

も全体で春学期54%、秋学期61%であった。昨年度は、春学期36%、秋学期35%であった。

質問9)~12)は、日本人は留学生の友人ができたかどうか、留学生は日本人の友人ができたかどうかを聞いたものである。日本人学生の中で留学生の友達がない割合は、春学期30%、秋学期27%であった。これは、昨年度の春学期31%、秋学期29%と同じ傾向である。留学生の結果を見ると、日本人の友達は、1~3人が最も多くなっており、人数としてはそれほど多くないと思われる。この結果は例年同様であるが、今後は日本人学生と留学生が交流できるサークルの設立などを考えていきたい。

次に大学生活に関する質問（①宇都宮共和大学に入って良かったと思う ②大学生活に満足している ③大学生活は楽しい ④大学生活は役に立っている ⑤大学の施設・設備に満足している ⑥大学周辺の環境に満足している ⑦大学の授業に満足している ⑧大学の授業は楽しい ⑨大学の授業は役に立っている ⑩大学の授業は難しい ⑪教員の教え方や対応に満足している）の結果を示す。これらの質問については、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）により回答を得た。

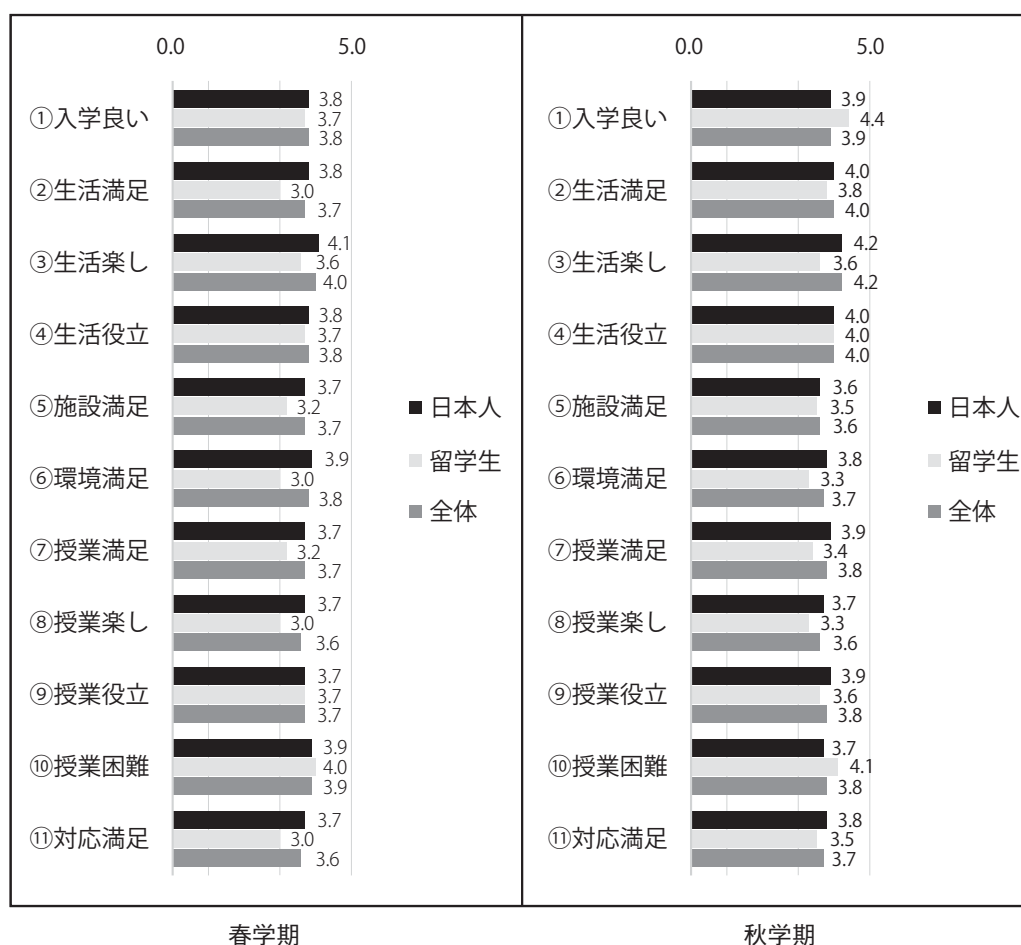


図12

まず、質問1の「入学して良かった」については、全体で春学期3.8、秋学期3.9で昨年度（春学期4.1、秋学期4.1）よりは低かった。2019年度の結果では、4.0を超えているものは多くないものの、春学期より秋学期の方が数値が高いものが半数以上になっている。1年を通じて新入生の評価が高まったと考えられよう。

次に、大学生活、大学の施設、授業、教員の対応などについて、不満な点、意見等を回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【自由記述】

<日本人学生：春学期>

- ・図書館の書籍が少なすぎる
- ・約1名の教員によるモラハラ・セクハラ・差別とも思われる発言が、授業内容の説明不足などによる不満があります。

<日本人学生：秋学期>

- ・英語の授業で英語でしか話さないの、何を言っているかわからない。
- ・友人がいる前提で物事をすすめないでほしい。困る。特にこちら側への連絡は学生を使わず、本人にお願いしたい。
- ・アイスの自販機が欲しい。
- ・図書の充実をしてほしい。
- ・Wi-Fi強化。
- ・教員側の生徒への好き嫌いがあからさまに分かる態度をしていて、自分にされた時は不快な気持ちになり、友達がされていてもいやな気分になる。
- ・Wi-Fiが動かない。
- ・駐車場に車を止められるようにしてほしい。
- ・車を停める駐車場がほしい。
- ・簿記が毎回同じ事ばかりで意味がないと思った。

以上のような意見が見られたが、Wifiの強化は同様の意見が挙げられた。通信環境は5Gに突入している現在、宇都宮シティキャンパスでも早急な対応が迫られよう。また、教員に対する苦情については、学期中も多くの学生から意見が寄せられた。学生の意見は真摯に受け止め、柔軟に対応していきたい。

3.2.2 これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい ②できるだけ様々な分野を広く勉強したい ③履修科目は、自分の興味関心で決めたい ④履修科目は、卒業要件を満たせば良い ⑤資格試験などに積極的に

取り組みたい ⑥大学院進学に向けて勉強したい ⑦授業の単位を一つでも多く取りたい ⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい ⑨積極的に大学の施設などを利用していきたい ⑩積極的に先生に指導を受けたい)を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

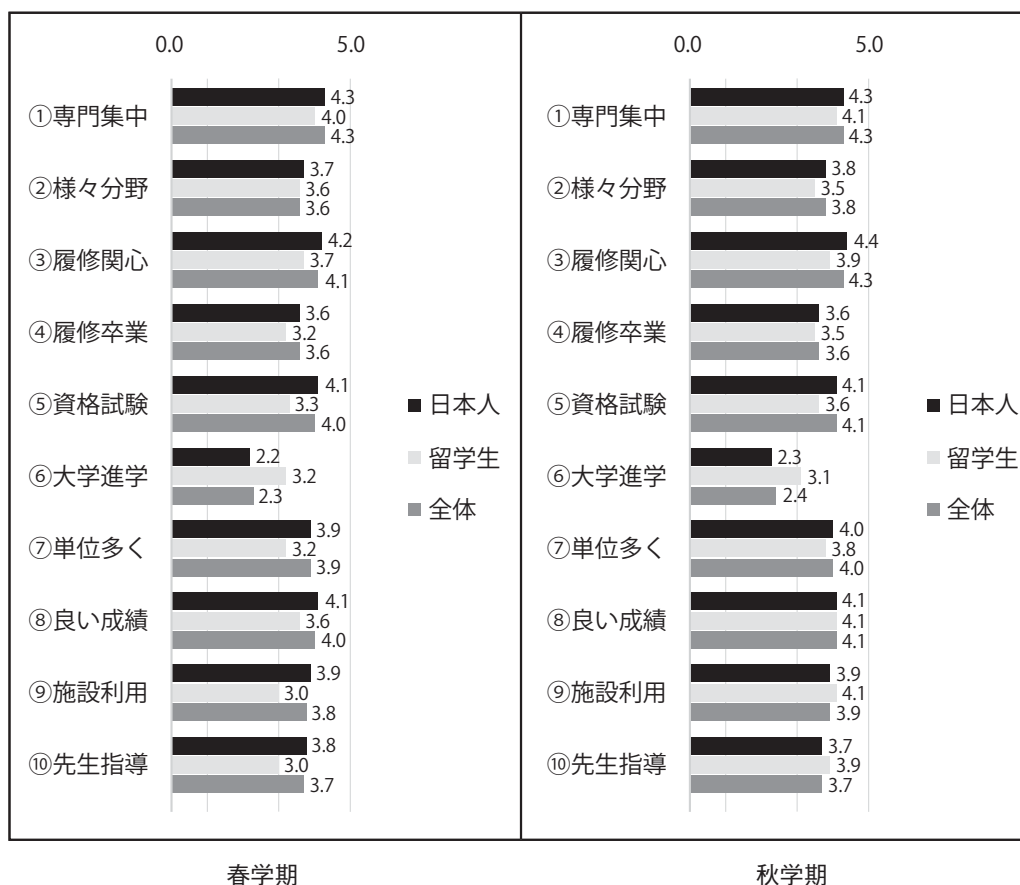


図13

まず、全体の結果を見ると、春学期は質問1、3、5、8、秋学期は質問1、3、4、5、7、8が4.0を超えた。これは昨年と同様の傾向であり、春学期から秋学期にかけて、学業についての意識が高まっていると考えられる。

3.2.3 基礎ゼミについて

基礎ゼミについては、基礎ゼミ全般について（春学期と秋学期共通項目）10の質問（①基礎ゼミは楽しかった ②基礎ゼミは役に立った ③基礎ゼミを通じて友人ができた ④基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった ⑤基礎ゼミでのグループでの話し合いは楽しかった ⑥週間日誌を書くのは役に立った ⑦週間日誌を書くのは面倒くさかつ

た ⑧作文を書くのは役に立った ⑨作文を書くのは面倒くさかった ⑩週間日誌、作文を教員がチェックするのは良かった)を設置した。また、基礎ゼミのテキストと講義について春学期5項目(①テキストは良かった ②合同講義「ノートテイキング」は良かった ③「キャンパスツアー」は良かった ④発表「キャンパス周辺の〇〇の場所」は良かった ⑤合同講義「レポートの書き方」は良かった)、秋学期4項目(①テキストは良かった ②発表「私の〇〇の場所」は良かった ③合同講義「文献検索」は良かった ④最終発表「これからの研究テーマ」は良かった)を設置した。回答は、5段階評定法(1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う)によった。

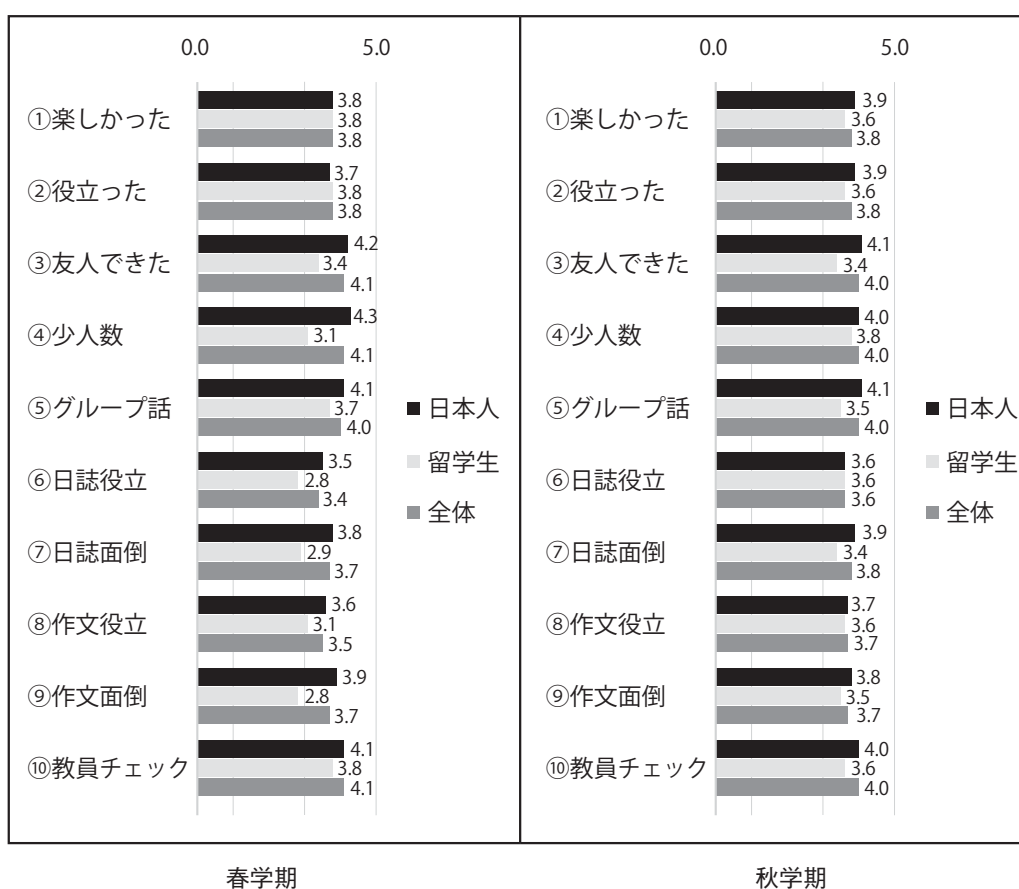


図14

まず、全体で4.0を超えたものは、春学期、秋学期ともに③、④、⑤、⑩であった。本学の学びの特色の一つでもある少人数制について高い評価が得られたことは評価できる。また、少人数でのグループワークを通じて友人ができたとする学生が多かったことも評価できるのではいだろうか。一方、2019年度は日誌と作文についての評価が低かった。2019年度は、日誌の一部を変更したが、来年度は学生がより役立つと感じられる内容にしていきたい。

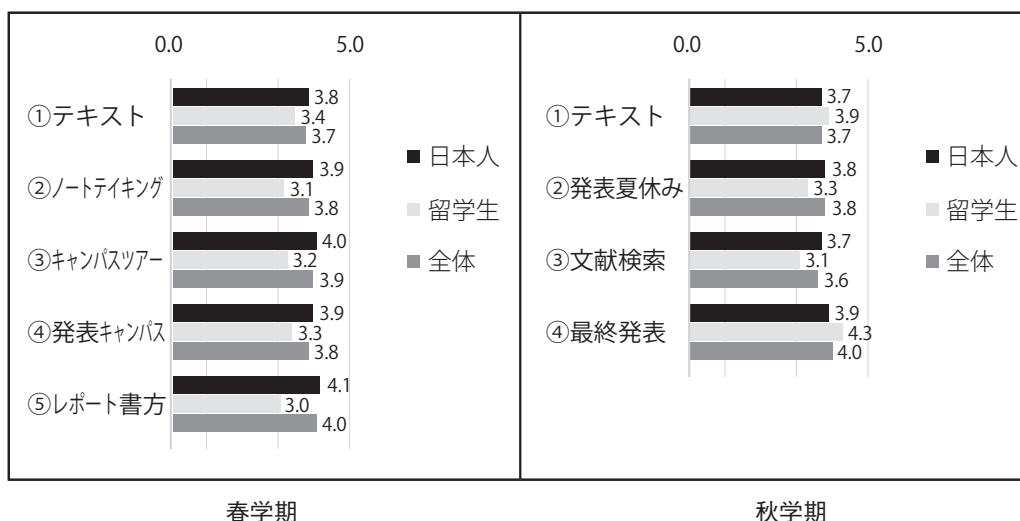


図15

まず、「テキスト」については、全体の評価が3.7であった。昨年度は春学期3.6から秋学期3.4に減少した。テキストは後半困難度が高くなるが、2019年度は特にその影響はなかったようである。発表については、全3回を単位習得のためには必須項目としているが、評価自体はそれほど高くなかった。発表は得意な者と不得手の者が明確に分かれるので、評価も分かれることになろう。最終発表のみ全体で4.0となっているが、2019年度は1人1分という短い時間で行った。来年度は、最終発表は1人2分程度の時間を確保し、総まとめとして相応しい回としたい。合同講義の文献検索は、PC教室の座席数が限られているため2回に分けて行ったが、評価はあまり高くなかった。講義の内容は、学生1人1人にPC画面を開かせ、インターネットの文献検索サイトにアクセスさせるという単純なものであるため、来年度以降は講義ではなく課題としても良いと思われる。

次に、基礎ゼミについての要望や意見を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【コミュニケーション講座について】

<留学生：春学期>

- ・基礎ゼミは楽しいだけでなく、生活中に役立っている。

<日本人学生：秋学期>

- ・基礎ゼミの本、なんで8年近く前の本なのに2千円以上するんですか。
- ・ゼミ旅行は全部のゼミにありますか？
- ・来年度の鬼怒川合宿の活動班は1年次の際とは違う班にしてほしいです。理由は、まだ仲が深まっていない人もいるので、話したいから。
- ・日誌の講義についての欄が日付があいていることが多いため書きにくいと感じた。
- ・もう少しマシンな司会進行を。

<留学生：秋学期>

- ・基礎ゼミの授業は役に立ちます。

4 まとめと今後の課題

昨年度の基礎ゼミでは、合同講義を充実させ、テキストの内容をより深く理解できるようにシラバスを編成した。2019年度は学生数の増加のため、発表準備と発表により多くの時間を割くこととなった。したがって、テキスト以外の補助回は多くなく、年間を通じてほぼテキストの内容に沿った内容となった。また、2019年度の基礎ゼミでは、昨年度に続いて全体発表において発表評価シートを採用した。これにより、他人の発表を集中して聞くようになったので、来年度以降も継続していきたい。

昨年度の教員ミーティングにおいて、週間日誌の内容について意見が出されたので、昨年度までの「欠席・遅刻した講義」、「その日の出来事」、「雑感・質問」、「作文」という構成を2019年度は「講義で印象に残ったこと・疑問に思ったこと・新たに発見したこと（字数制限なし）」、「週間報告（2週間で印象に残ったこと）200字」、「作文」とした。しかし、学生の評価は高くなかった。「面倒くさい」と思うのは致し方ないことだと思われるが、それでも学生が楽しんで取り組めるような内容に改善していきたい。また、字数制限が無いと、単語のみを書いたりする学生もいるため、書き込む欄は下線ではなくマス目表示に変更する予定である。これまで、週間日誌は学生本人と教員との間だけでやり取りされたものであった。しかし、来年度以降は週間日誌の一部をクラス内で発表させ、学生たちに刺激を与えあう機会を設けたいと考えている。特に「講義で印象に残ったこと・疑問に思ったこと・新たに発見したこと」は、学生間で記述量、内容ともに差が大きく、成績上位者ほどそのレベルが高いと感じられた。この項目を口頭で発表させることによって、同学年の者が同じ講義を受け、どのような受け止め方の違いがあるのかを学生たちに実感してもらえないかと思う。

本学において初年次教育が始まってから11年が経過し、当初とは内容と共に学生の数も大きく変化した。限られた教員の中でより質の高い教育を実践していくために、来年度も知恵を絞りながら学生の為になる講義にしていきたいと考えている。

【参考文献】

- 川廷宗之・川野辺裕幸・岩井洋編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』弘文堂
- 松田勇一（2010）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題－平成21年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第11号
- 松田勇一（2011）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(2)－平成22年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』第12号

- 松田勇一（2012）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(3) -平成23年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学論叢』第13号
- 松田勇一（2013）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(4) -平成24年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学論叢』第14号
- 松田勇一（2014）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(5) -平成25年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学論叢』第15号
- 松田勇一（2015）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(6) -平成26年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学論叢』第16号
- 松田勇一（2016）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(7) -平成27年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第17号
- 松田勇一（2017）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(8) -平成28年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第18号
- 松田勇一（2018）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(9) -平成29年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第19号
- 松田勇一（2019）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(10) -平成30年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果-」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第20号

謝辞：2019年度の基礎ゼミでは、本学の森寛史教授、吉田肇教授、和田佐英子教授、大石和博准教授、今喜史専任講師、西山弘泰専任講師、渡邊瑛季専任講師には、円滑な授業運営・クラス活動のためご協力をいただき、また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。